

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年3月2日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況 (暫定値) (令和6年数値は1月1日からの同期間数値)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	29	3	2	10	22	37
令和6年	38	8	0	8	30	46
前年同期比	-9	-5	2	2	-8	-9

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	8	27.6%	1	0	3	9
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計	8	27.6%	1	0	3	9	13
中央アルプス	2	6.9%	0	0	1	2	3
南アルプス	1	3.4%	0	0	1	0	1
八ヶ岳連峰	3	10.3%	0	0	2	1	3
その他の山岳	15	51.7%	2	2	3	10	17
計	29		3	2	10	22	37

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	3	10.3%	1	0	2	0	3
転倒	9	31.0%	1	0	8	0	9
病気	2	6.9%	0	0	0	2	2
道迷い	8	27.6%	0	0	0	13	13
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	1	3.4%	0	0	0	1	1
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	0	0.0%	0	0	0	0	0
不明・他	6	20.7%	1	2	0	6	9
計	29		3	2	10	22	37

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	2	2		0	0	0	0	0	2		
20代	0	0	0	4	4	12	0	0	0	1	1	5	16	
30代	1	1	1	3	6	37.5%	0	0	1	2	3	9	43.2%	
40代	1	0	3	2	6	12	0	0	0	0	0	6	13	
50代	0	0	1	5	6	37.5%	0	0	1	0	1	7	35.1%	
60代	0	0	3	2	5	8	0	0	0	0	0	5	8	
70以上	1	1	0	1	3	25.0%	0	0	0	0	0	3	21.6%	
計	3	2	8	19	32		0	0	2	3	5	37		
比率	86.5%						13.5%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（2/25～3/2）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
2月25日	北アルプス 鷲峰	女	37	負傷	転倒	3人パーティでバックカントリーを滑走中、転倒、負傷
3月1日	浅間連峰 車坂山	男	59	無事救出	発病	単独で黒斑山に向けて登山中、体調を崩し、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、2件の山岳遭難が発生しました。

先週は、気温が上昇し暖かい陽気となった日もあり、これからは一日の寒暖差が大きくなる時期です。標高の高い山域でも気温の上昇により雪が溶け、気温の低下とともに一気に凍結してアイスバーン状になることが少なくありません。歩行中や滑走中は、雪の状況をしっかり見極めて行動する必要があります。また、アイスバーン状の雪面に新雪が積もると表層雪崩の発生リスクが高まります。

冬山登山やバックカントリー滑走は、積雪の状況を見極めて、雪崩のリスクや滑落の危険がある場合には、自分の技術を過信せず慎重な行動を心がけましょう。状況が悪い時は、入山を控える判断もとても大切なことです。また、アクシデントにより救助要請をしても、時間帯や天候によってはすぐに救助ができない場合がありますので、日帰り登山する際も、

『万が一に備えた装備（ビバーク装備等）を必ず携行しましょう。』

※ビバーク装備とは??

ツェルト（簡易テント）、ガスバーナー（火器類）、防寒着、非常食等

積雪が多い場合は、雪洞やイグルーを作成することができます。

スコップの携行や雪洞等を作成する技術は、身に付けておくと冬山登山では大変有効です。